

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(共同制作支援事業)

成果報告書

事業（公演）名	神奈川県民ホール・札幌文化芸術劇場・兵庫県立芸術文化センター・iiichiko総合文化センター・東京二期会・札幌交響楽団・東京フィルハーモニー交響楽団共同制作 ヴェルディ作曲 オペラ『アイダ』全4幕（イタリア語上演・日本語字幕付）
代表団体名	公益財団法人神奈川芸術文化財団
劇場・音楽堂等の称名	神奈川県民ホール（公益財団法人神奈川芸術文化財団） 札幌文化芸術劇場 hitaru（公益財団法人札幌市芸術文化財団） 兵庫県立芸術文化センター（公益財団法人兵庫県芸術文化協会） iiichiko総合文化センター（公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団）
実演芸術団体等の称名	公益財団法人東京二期会 公益財団法人札幌交響楽団 公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
内定額	81,459 (千円)

事業概要

(1) 事業の概要

趣旨・目的、ニーズ等

本事業代表館である神奈川県民ホールは、全国の劇場・芸術団体と共同制作を行い、単独では成し得ない大規模かつ国際的水準のオペラを創造発信して参りました。文化庁からのご支援で（平成19年度～28年度の間で9回）実現した数は全国で9演目32公演に及び、47,029人の観客にオペラ鑑賞の機会を提供し、鑑賞者拡大、芸術文化振興に寄与して参りました。平成30年度は、10月に開館した札幌文化芸術劇場の柿落とし公演を機に、これまで共同制作で実績のある神奈川県民ホールとiichiko総合文化センター、兵庫県立芸術文化センターの大舞台を有する4つの劇場と、日本を代表するオペラ団体東京二期会、さらに札幌交響楽団・東京フィルハーモニー交響楽団が加わり、新たな共同制作を組織し、スペクタクル・オペラ『アイダ』を全国縦断上演しました。この共同制作により大劇場の連携ならではの壮大なスケールのオペラ上演が実現し、国際的水準の舞台芸術を各地域で広く紹介し、わが国の舞台芸術全体の水準を上げ、劇場からオペラ鑑賞文化が形成されていくことを目的としました。観る者の心を強く揺さぶり屈指の人気を誇るオペラ『アイダ』、今回のプロダクションではイタリアの名門、ローマ歌劇場での故マウリツィオ・ディ・マッティア原演出による壮麗な舞台を日本で初演するため、演出家のジュリオ・チャバットティはじめデザインチームが来日し、日本人キャスト、スタッフとともに新たなプロダクションとして制作にあたりました。指揮には、現在、世界で最も重要な若手オペラ指揮者と目されるアンドレア・パッティストーニを起用し、出演歌手は、現在考え得る最高の日本人歌手を中心に、世界のオペラ界で活躍するソリストを配し、国籍や所属団体の枠組みを越え切磋琢磨しながら、総合芸術であるオペラの醍醐味を伝える舞台の創造を目指しました。共同制作による公演回数の増加は、演奏家の活躍機会の増加、能力の向上が期待でき、また共同制作の過程において、劇場、芸術団体、キャストスタッフの地域間交流による制作ノウハウの向上にもつながりました。劇場、芸術団体が協力し高めあうことは、拠点施設の機能強化を推進するとともに、実演芸術鑑賞の地域間格差の解消にも貢献し、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨にも沿います。さらに総合芸術であるオペラを各地域で制作上演することにより、クリエイティブな地域社会の形成に寄与し、文化芸術基本法が掲げる“文化芸術振興のみに留まらず、観光やまちづくり等新たな価値の創出”にもつながります。“劇場でオペラを観る”という高水準の舞台芸術に触れる経験は、観客と出演者や舞台制作者達との深い感動の共有に加え、オペラを通して世界の文化を知り、感性を高め、真に豊かな心を育む効果をもたらします。共同制作支援を得てこそ可能となるこれらの目的を実現し、日本のオペラ鑑賞者の増大、東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの機運醸成を促し、日本の舞台芸術発展に寄与いたします。

実施日時・実施会場（所在地）・実施回数

平成30年10月7日（日）～8日（月・祝） [2回] 札幌文化芸術劇場 hitaru
平成30年10月20日（土）～21日（日） [2回] 神奈川県立県民ホール 大ホール
平成30年10月24日（水） [1回] 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール
平成30年10月28日（日） [1回] iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ

演目・曲目、幕構成、主な出演者、主なスタッフ、あらすじ等

【演目】 ヴェルディ作曲 オペラ 『アイダ』 全4幕（イタリア語上演・日本語字幕付）
【あらすじ】 エジプトの敵国エチオピアの王女アイダは、エジプトの捕虜となり、身分を偽って王女アムネリスの奴隷として仕えている。アイダはエジプトの将軍ラダメスと愛し合っているが、アムネリスもまたラダメスを愛していた。アモナズロ王率いるエチオピア軍が、エジプトに侵攻してきたとの知らせを受けると、エジプト国王はラダメスをエジプト軍の総司令官に任命する。アイダは、父と恋人が争わねばならないことを嘆く。戦いはエジプトの勝利に終わり、エジプト国王は凱旋したラダメスに娘アムネリスを与え、将来国王になるよう言う。敗れたアモナズロは、アイダにラダメスからエジプト軍の動向を聞き出させる。ところが、その場にアムネリスが現れる。アムネリスは、捕えたラダメスに、自分と結婚するならば命を助けると言うが、ラダメスは受け入れない。その結果、ラダメスは地下牢に生き埋めにされることになる。
【演出】 ジュリオ・チャバットティ【原演出】 マウリツィオ・ディ・マッティア
【装置デザイン】 アンドレア・ミーリオ【衣装デザイン】 アンナ・ピアジョッティ【照明デザイン】 パトリツィオ・マッジ
【合唱指揮】 佐藤宏【演出助手】 菊池裕美子【舞台監督】 村田健輔【技術監督】 菅原多敢弘
【指揮】 アンドレア・パッティストーニ
【管弦楽】 札幌交響楽団（札幌公演）／東京フィルハーモニー交響楽団（神奈川公演・兵庫公演・大分公演）
【出演】 10月7・20・24日／10月8・21・28日
アイダ：モニカ・ザネッティン／木下美穂子 ラダメス：福井敬／城宏憲 アムネリス：清水華澄／サーニャ・アナスタシア
アモナズロ：今井俊輔（10月7・20日）／上江隼人（10月8日・21日・24日・28日）ランフィス：妻屋秀和／齊木健詞 国王：
ジョン・ハオ／清水那由太 巫女：針生美智子／松井敦子 伝令：菅野敦
合唱：二期会合唱団・札幌文化芸術劇場アイダ合唱団（札幌公演）、二期会合唱団（神奈川公演）、二期会合唱団・ひょうご
プロデュースオペラ合唱団（兵庫公演）、二期会合唱団（大分公演）
バンド：陸上自衛隊北部方面音楽隊（札幌公演）、大分県立芸術文化短期大学音楽科（大分公演）

事業（公演）の特徴、鑑賞者利用者拡大のための工夫点又は戦略等
<p>【共同制作の拡がり】今年度は神奈川、大分に加えて札幌文化芸術劇場と兵庫県立芸術文化センターを迎え、新たな共同制作公演に取り組みました。特に札幌は柿落とし公演であり、日本のオペラ史に新たな歴史を刻む話題性の高い公演となり、北海道の地での新たなオペラ観客層の拡大に貢献しました。</p> <p>【国際的水準の舞台の創造】オペラ『アイダ』は出演者数、舞台等、すべてにおいてスケールが大きく、それゆえに経費もかかり上演回数のない演目ですが、共同制作し、またローマ歌劇場と連携することで、単独では成し得ない大規模かつ上質なオペラ公演の創造発信を実現しました。</p> <p>【国際連携、国際交流】オペラで世界と日本をつなぐ目的でローマ歌劇場と提携し、世界が注目する指揮者、ヨーロッパで活躍する演出家、歌手との芸術的交流を実現しました。</p> <p>【若手歌手育成】主要ソリストには、国内外の第一線で活躍する日本人歌手、外国人歌手を配し、特に主要な役には若手歌手の育成の目的で、音楽大学、大学院等専門機関で学ぶ学生をアンダースタディとして募集し、プロの現場で実践を学ぶことができる「オペラ歌手育成プログラム」を実施しました。</p> <p>【人材育成】将来、劇場等で働く希望を持つ学生や若者を対象にした公演制作インターンの受け入れ等を実施し、また参加する劇場・芸術団体間での人材交流、研修、派遣等を通じて公演制作者のスキルアップにもつなげました。</p> <p>【観客づくりへの工夫】オペラの裾野を広げるため、知名度の高い講師や専門家を起用した講座やレクチャー、コンサート、劇場職員による入門講座、映像上映会、展示等の関連企画を充実させオペラへの期待感を高めます。学生席、U25（25歳以下対象チケット）や低価格帯の座席を設け若年層の来場を促しました。また一部の公演では合唱団員を公募する等、若者や初心者からオペラ愛好者まで、幅広い層に対し、公演の理解を深め、興味を喚起させる取り組みを行いました。</p>
共同制作を行う劇場・音楽堂等、実演芸術団体
<p>神奈川県民ホール（公益財団法人神奈川芸術文化財団） 札幌文化芸術劇場 hitaru（公益財団法人札幌市芸術文化財団） 兵庫県立芸術文化センター（公益財団法人兵庫県芸術文化協会） iichiko総合文化センター（公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団） 公益財団法人東京二期会 公益財団法人札幌交響楽団 公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団</p>
共催者・協賛者・後援者・関係機関
<p>提携：ローマ歌劇場 後援：イタリア大使館、イタリア文化会館、札幌市・札幌市教育委員会（札幌公演）、大分合同新聞社・エフエム大分（大分公演） 協賛：全日本空輸株式会社北海道支店（札幌公演） 特別協賛：三和酒類株式会社（大分公演） 共催：TOSテレビ大分（大分公演） 協力：全日本空輸株式会社大分支店・株式会社大分航空トラベル（大分公演）</p>

（２）事業の目標値、実績値

実施会場	実施日程	入場者・参加者数	
		目標	実績
札幌文化芸術劇場 hitaru	平成30年10月7日（日）～8日（月・祝）	目標	2,572
		実績	4,188
神奈川県立県民ホール 大ホール	平成30年10月20日（土）～21日（日）	目標	2,728
		実績	3,936
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	平成30年10月24日（水）	目標	1,301
		実績	1,997
iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ	平成30年10月28日（日）	目標	1,169
		実績	1,702
		目標	
		実績	
事業の目標値、実績値		目標	7,770
		実績	11,823

【妥当性】

自己評価

共同制作支援事業の意図や役割分担など事業が適切に組み立てられた（と認められる）か。

1. 本事業の制作・実施にあたっては、各地域で創造活動を続ける大型拠点劇場と日本を代表する芸術団体が手を組むことにより下記を目的とした。
 - ① 現在考え得る最高布陣で世界水準に値する本格的オペラを創造発信する。
 - ② それを全国各地で上演することで、首都圏一極集中ではなく地域間格差解消や国民が公平に鑑賞する機会を提供する。
2. 4劇場6公演全て完売等、観客、専門家からも高い評価を得た（資料2-1及び「創造性」参照）。特にこれまで実績のある神奈川、兵庫、大分のみならず、本公演が柿落としの札幌では、劇場オープンを祝うに相応しい演目、大がかりな舞台、水準の高さで大きな話題となり、今後の北海道地域でのオペラ振興に大きな励みになったと考える。
3. 成功要因としては、制作・広報面のプロセスにおいて、各劇場と芸術団体が持つ経験、専門知識、ノウハウを結集し、事前の綿密かつ適切な役割分担を行い（資料1-1）、相互の信頼関係の基で効率的進行ができたこと、高水準を保ちつつ可能な限り経済的に事業を実施できたことが挙げられる。
4. 今回、札幌の柿落とし公演が共同制作により成功に繋がったことも特筆すべきことである。北海道随一の大型新劇場開設にあたり、これまで共同制作に取り組んできた複数劇場と芸術団体が連携し各々の実績や経験を活かしたことは、単独でなく共同制作だからこそ実現できた成果の一つと言える。
5. 一連のプロセスにおいて齟齬の発生はなかった。宿泊費高騰、主要歌手2名の体調不良による降板、災害発生等いくつかの事故・問題が生じたが、主催7者間の相互理解、協力体制、連携により解決できた。

上記の通り、今回の共同制作は本「共同制作支援事業」の「今後へのモデル」の一つになったと自己評価する。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

○ 文化的意義

助成により下記の通り実現できた。

- ① 規模の大きさから本格的上演が少ない作品（アイーダ）を取り上げることができた。
 - ② 世界的知名度と人気を誇る指揮者、歌手・演奏家の起用が可能となった。
 - ③ 演出家等をローマから招聘し国際的視点で高水準な作品の創造発信に繋がられた。
 - ④ 首都圏一極集中でなく東西4劇場で上演でき、多くの国民にオペラ鑑賞機会を提供。また各地域の芸術団体等を起用することで、参加機会提供と育成にも繋がられた。
- これらにより日本の芸術水準向上、オペラ界発展に大きく貢献できたと自己評価する。

○ 社会的意義

劇場と芸術団体は、芸術文化振興だけでなく多様な社会への関わり、貢献、波及も使命の一つと考え、本事業で取組んだ実施結果を下記の通り自己評価する。

- ① 共生社会
多様な人々が公平に芸術文化を享受できる環境整備に努めた（資料2-6）。
- ② 国際化
場内アナウンス、広報物への2ヶ国語表記等、外国人への鑑賞機会提供に努めた（資料2-6）。
- ③ 人材育成
若手歌手・制作者を受入れ創造発信の現場体験の場を提供し、人材育成の社会的役割の一面を担うことができた（資料1-2）。
- ④ 地域活性化
各地域の芸術団体等の起用、実施により地域企業との連携や経済産業への波及効果が生まれ、地域活力の向上に貢献できた。
- ⑤ 災害時対応

本助成と直接関わりはないが、札幌オープニング約1ヶ月前に北海道胆振東部地震が発生。緊急避難場所として被災者にロビーを提供。劇場が地域を支える新たな場として社会に貢献したことも追記する。

○ 経済的意義

本事業地域に与える経済的効果も多大であった。制作プロセスにおいては主に広報面で情報通信業、印刷・デザイン等製造業・サービス業への効果があり、公演期間においては250名超の出演者・スタッフ、鑑賞者が各地に移動し滞在することから、運輸・宿泊・飲食・観光業等への経済波及効果と雇用を生み出したと言える。

上記は、本日一連のプロセスを通して、地域の劇場と芸術団体が手を取り相乗効果で生み出した産物であり、今後も継続することで更に発展が遂げられると認める。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

○ 目標1：単独では実現不可能な規模及び国際的水準の上質なオペラ公演の創造発信

各地域の劇場と芸術団体が強力に連携した事により、壮大な規模で国際的水準の高いオペラ公演が実現。観客の満足度は86.6%（資料2-1）、専門家の批評内容（「創造性」参照）も上々であり、本目標を達成できたとして自己評価する。

○ 目標2：オペラ鑑賞者の裾野拡大

学生券、25歳以下対象チケットや低価格帯の座席を設け若年層の来場を促した結果、若い世代のオペラ鑑賞者数は目標値である450人を上回る594人と、オペラ鑑賞者の裾野拡大に寄与した。（資料2-3）

○ 目標3：オペラへの興味・関心の促進

初心者からオペラ愛好者まで幅広い層に対しオペラへの理解を深め興味を喚起させる多彩な関連企画を実施。参加者は4館合わせ2,122人と目標の2,300人には届かなかったが、北海道胆振東部地震の発生により中止となった関連企画の入場券実売数378枚を足すと2,500人となり本目標を達成できたといえる。（資料2-4）

○ 目標4：社会への波及効果の創出、話題性の提供

札幌の柿落とし公演が全国縦断する事や、バットィストーニ指揮の『アイダ』である等話題性に富み、各劇場満席となった。（資料2-3）

公演前のパブリシティ露出件数も目標値の70件を上回る79件と本目標を達成する事ができ、社会への波及効果にも繋がった。（資料2-2）

○ 目標5：劇場および芸術団体の専門人材育成、スキルアップ

インターンシップとして、2名の学生が参加。（資料1-2）大規模なオペラの制作現場において、稽古から本番までの過程を体験し、制作スキルの初歩を身につける機会を提供した。また、主催7者間で30人の職員、専門人材が交流しノウハウを共有した事で、公演制作スタッフのスキルアップに繋がった。（資料2-5）

○ 目標6：バリアフリー・多言語対応の向上

障害者の客席案内人員（障害者に対する適切な案内を研修等で学んだスタッフ）の配置、チラシ等の2ヶ国語表記など、多様な社会に対応する取り組みを積極的に行った。（資料2-6）

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

○ 事業期間

事業期間については、「妥当性」で示した、主催7団体の適切な役割分担をもって、「助成金交付要望書」の「企画・制作スケジュール」に記述した当初のとおり、1カ月の間に北海道から九州まで4劇場にて6公演を滞りなく進行および実施することができた。
特筆すべきこととして、2018年9月6日に北海道胆振東部地震が発生したが、札幌の職員・関係者一丸となった復旧・点検・対応作業と、主催7団体の協力体制により滞りなく遂行することができた。

○ 事業費

事業費の当初予算と決算状況については「実績報告書」に報告したとおりである。「助成金交付要望書」で示した助成対象経費（事業：280,349千円 バリアフリー・多言語対応：700千円）のうち助成金要望額としては、当初事業：120,000千円、バリアフリー・多言語対応：700千円であったが、助成金交付決定額は事業：80,759千円、バリアフリー・多言語対応：700千円であった。そのため、差額の39,241千円の事業支出減が必要となり、事業期間を通して最後まで主催の全劇場・芸術団体間で情報共有、工夫し削減に努めた。

特に都市を中心としたホテルの慢性的な不足や、東京オリンピック・パラリンピックに向けたホテル代や運搬費の高騰などの影響は多大であった。また「アイダ」のような大規模オペラの上演には出演者や舞台スタッフの移動・宿泊に関わる費用も大きな割合を占めるが、主催全7団体の連携・努力により事業費総額の削減に努め（資料3-1）、入場料収入の増も加わり、適切・安定した運営を行うことができた。さらに、地域の芸術団体や人々の参加（バンド、合唱、スタッフ）、企業協力者を獲得できたことも経費削減につながった。このことは同時に地域の活性化にもつなげられたと考える。

経費削減努力を積極的に行いつつ、全4劇場6公演を完売し当初の計画以上の多くの国民に観賞機会を提供することができた。以上、助成金を効率よく適切に使用できたと自己評価する。

【創造性】

自己評価

我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となることが期待できる国際的水準の公演であった（と認められる）か。

○ 各劇場・芸術団体の役割

各々の専門性やノウハウを総動員して、国際的水準のオペラを創造発信し、我が国の実演芸術水準の向上に貢献した。

・ 神奈川県民ホール：開館20周年時よりオペラの自主制作や共同制作に取り組みノウハウを蓄積。（資料4-1、4-2）本事業でも代表館を務め、適切な役割分担と連携体制を構築。（詳細は「妥当性」に記述）

・ 札幌市文化芸術劇場 hitaru：北海道随一の大型劇場として開館。本事業は柿落とし公演として期待度も高く、入場券は即日完売。道内のオペラ観客層を掘り起こした。（資料2-2 No. 49）

・ 兵庫県立芸術文化センター：開館以来、継続して自主制作オペラに取り組み、観客層を拡大。（資料4-3）本事業でも高度なマーケティング戦略により入場券を早期完売させ、各地への波及効果をもたらした。

・ iichiko総合文化センター：九州で唯一オペラ上演可能な劇場。共同制作にも継続して取り組んできた。（資料4-4）本事業でも九州のオペラ文化振興に寄与した。（資料2-2 No. 97、4-5）

・ 東京二期会：日本最大のオペラ団体。ネットワークや制作スキルを駆使して公演制作、共同主催者へのキャスティングの助言、ローマ歌劇場との調整等の役割を果たした。

・ 札幌交響楽団／東京フィルハーモニー交響楽団：共に日本を代表する楽団として著名な指揮者との共演実績や海外公演の実績を活かし、本事業でも高水準の演奏を実現した。

○ 新たな創造活動、キーパーソンの水準

ローマ歌劇場での故マウリツィオ・ディ・マッティア原演出による壮麗な舞台を日本で初演するため、演出家、振付家をはじめデザインチームが来日し、日本側と連携して新制作にあたった。世界的な若手オペラ指揮者アンドレア・バッティストーニや、日本人歌手を中心に、国内外で目覚ましい活躍を見せるソリストを起用し、高水準の舞台を実現した。（資料2-6-添付資料5 ※プロフィールページ参照 資料4-6）

○ 公演の特徴、工夫点、戦略等は事業概要に記述した通り。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か

下記のとおり本事業の芸術性の高さや共同制作の取組み、各地の盛況具合、来場者、参加者の満足度の高さが注目を集めており、各劇場・芸術団体の評価の向上につながったと認められる。

○ マスメディアへの露出

・ 日経新聞「共同制作」は欧州では一般的だが日本ではまだ少ない。そんな状況に一石を投じるプロダクションが決定」（資料2-2 No. 6）

・ 大分合同新聞「田中幸枝さん（中略）は「すごかった。大分でこんな素晴らしいものが見られるなんて」と興奮冷めやらぬ様子だった。」（資料2-2 No. 97）

・ 日経新聞「各地の公演団体の連携は、今後も重要性を増していこう。」（資料2-2 No. 32）

・ 北海道新聞「ヒタルが自主事業の目玉として掲げるオペラ公演は快進撃が続く。「アイダ」は、公演5か月前の段階で2公演の計4千席余りが完売。」（資料2-2 No. 49）

○ Twitterでの観客、参加者等の反応より

・ 札幌「自宅からオペラハウスにいく日が（日本で）日常になるとは思ってもみなかった」（資料4-7）

・ 神奈川「ほとんど日本人ばかりでも、『アイダ』を水準が高い演奏で聴けるとは」（資料4-8）

・ 兵庫「バッティストーニの（中略）創る音楽に日本で接する事が出来るのは、本当に貴重な機会」（資料4-9）

・ 大分「初オペラでした、、、（中略）本当に感動しました」（資料4-10）

○ 専門誌等での評価

・ サラサーテ12月号「バッティストーニの音楽とオペラ作りは秀逸で、（中略）どのキャストも皆、魅力的な歌で、3時間30分が短く感じられるほど楽しめた」（資料2-2 No. 31）

・ 音楽現代12月号「日本人主体のオペラ公演もここまでの実りに至ったか、の感。」（資料2-2 No. 33）

・ 神奈川県民ホール外部評価「他都市との共同制作による実現の努力を評価したい。」「日本人歌手の起用は日本のオペラの水準向上や普及的な面でも非常に重要であると考えられ、本公演の意義は大きい。」（資料4-11）